

Conceptual Art

第4週目発表班 プレレジュメ
発表者：岡田、菅井、高木、水野

0. はじめに

私たちは今回の発表で、コンセプチュアル・アートにおける女性のアーティストと写真を使用したアーティストの2つの章を扱います。この2つの章に共通しているのが、「見る」という行為です。今回の発表では彼/彼女らの作品を通し、私たちが普段何気なしに行っている「見る」という行為に焦点を当て研究していきます。下に私たちが扱う各章の要約を載せてあります。みなさんが文献を読む上での手掛かりにしてください。

1. 女性コンセプチュアル・アーティストの独自の経験

■レディメイドとして女性を提示した作品

- ・「レイプの光景」 アナ・メンディエタ 1972年
- ・「これは何を表象しているか あなたはなにを代表しているか（ラインハート）」
ハンナ・ウィルケ 1978-1984年

これらの作品では女性をレディメイドとして提示し、男性が女性を欲望の対象として見ていた社会の体制から、女性の身体や権力を奪回した。

またこのような試みをすることで今までの力関係が逆転し、女性自身が男性の欲望をコントロールする側であるということを証明した。

■女性へのイメージやステレオタイプを扱った作品

- ・「台所の記号論」 マーサ・ロスラー 1975年
- ・「マックスのカンザスシティのための無題のパフォーマンス」
エイドリアン・ハイパー 1970年

知らず知らずのうちに社会から突きつけられた女性のイメージや、規定、また女性みずからの自己への規定を変えることを目的とした。

・ 「私の自由意思による罰」 アネット・メサジェ 1972年

この作品は女性に対する社会の規定や女性自らの自己規定を変えるという目的もあるが、美容整形やその他治療を通して女性が女性らしくありたい、また綺麗でありたいという願望を賞賛する意味合いを含んでいる作品である。

【用語説明】

〈フェミニズム〉

フェミニズムとは男女同権の主義に基づき、女性の社会的、政治的、法律的、性的な権利を主張し、また獲得を目指し、男性優位の家父長的な社会構造を批判し変えていこうとする運動である。今回文献で紹介されている作品が作られた1960年代後半から1970年代は、世界的に広まっていった女性解放運動のきっかけであるアメリカのウーマンリブ活動 (Women's Liberation) が始まった時期とされている。

〈ジェンダー〉

社会的または文化的な性差、ありよう。⇔生物学的、身体的な性差をセックス (sex) しかし、欧米諸国ではジェンダーに生物学的な性差という意味が含まれている。

〈フェティッシュ〉

呪術的な効果を持つとされるもの。あるモノにそのモノが持つ意味以上のものを与えてしまうこと。

2. 写真を使うアーティストたち

■ 写真と写真の使い方

写真を利用したコンセプチュアル・アーティストの姿勢

- ・ 必ず何らかのイデオロギーを持つ表象方法の規定
- ・ 文章と写真の組み合わせ

ex. メル・ポフナー 《誤解(写真の理論)》 1970年

■ 行為や現象の記録

コンセプチュアル・アートにおける写真のもともとの役割、初期の写真作品

- ・ カメラは意見を持たない複写装置

ex. ブルース・ナウマン 『小さな火を燃やす』

ダグラス・ヒュブラー

■ カメラの「芸術的な面」

ex. ジェフ・ウォール 《景観の手引き》

ジョン・ヒリヤード 《みずからの状態を記録するカメラ》

《死因？(3)》 トリミングとキャプション

- ・ 写真を制作、構成
- ・ 反射性

■ 写真と見る行為

ex. ハンス・ペーター・フェルドマン 《紐につるされた本》

- ・ 見ることに對して、見る人の自意識を喚起する
- ・ 写真から感じとる情念
- ・ 写真は必ず過去に属するもの

■ ダン・グレアム 《アメリカのための家》

- ・ 挑戦的なまでに曖昧で、中間状態に存在する
- ・ 芸術の現状と世界の現状の分析

■ ベルント・ベッヒャー、ヒラ・ベッヒャーとクリスティアン・ボルタンスキー
[ベルント・ベッヒャーとヒラ・ベッヒャー]

- ・ 作品の匿名性、構成上のあり方
- ・ 人間性を見出す

ex. 《回転する塔》1997年

『無名の彫刻—工学的構築物の類型学』1970年

『螺旋塔と冷却塔の建築』1971年

[クリスティアン・ボルタンスキー]

- ・ 公然と嘘を並べ立てる

ex. 《クリスティアン・ボルタンスキーの10枚の肖像写真 1946—1964年》

■ テキストとイメージ

- ・ 文章(言葉)と写真(イメージ)のずれ
→ ずれによって見る者を考えさせる

Ex. ナラティブアート(物語芸術)

ビル・ベックリー「ザ・サークル・ライン」1974年

■ イデオロギーの批判

- ・イデオロギー、神話を利用する広告というモデル
→根拠のない事実に基づく社会での支配的な通念が人々の行動を規定、またイメージを補強

Ex. ヴィクター・バーギン「所有」1976年

- ・非現実を作り出す広告
→写真は非現実を魅力的にする

Ex. バーバラ・クルーガー「無題(英雄はもうたくさん)」1987年

■ 視線＝支配

- ・見ることは管理、抑圧である
→現代社会において人は見られる恐怖により自己の行動を規定、またそれを自己に内面化する
→人々の相互監視

Ex. ヴィクター・バーギン「動物園 78」1978-79年

■ 対象と表象

- ・世界は言語を媒介にすることなく知りえない
→私たちはありのままの世界を知ることができない

Ex. ボリス・ミハイロフ「ルリッキ」1975-85年

■ 写真を使用したアーティストたちの変化

- ・テキストからイメージの分離
→「芸術作品」としての写真の再来
→テキストとイメージの結合への批判
- ・「見ること」の批判から快楽へ
→感情、美しさの再発見
→写真の絵画化

Ex. ジェフ・ウォール「女性たちのための写真」1979年

Ex. トマス・ストルート

■ 抽象から固有、一般から自伝へ

- ・個人的なことを表現することで、見る人へと問いかける
→見る者が自分自身に言及する

Ex. ケン・ラム「ここでアタシ、なにやってんの」1994年

- ・被写体を支配しない表現
→他者に自らの言葉で語らせる

Ex. ギリアン・ウェアリング「自分がそれに言わせたいことを言ってくれる記号、誰かが自分に言わせたいことを言う記号ではなく」1992-1995年

【用語解説】

<イデオロギー : ideology>

1. 物事に対する包括的な観念。
2. 日常生活における哲学的根拠。
3. 社会に支配的な集団によって提示される観念。

<トリミング : trimming>

暗室やコンピュータ上での写真の画像処理において、画面の一部だけを切り出す加工をさす。写真の外形を変えたり、広い意味では印画紙の一部だけにプリントして他を余白にしたりするのもトリミングに含まれる。

<『エスクワイア』 : 『Esquire』 >

1933年にアメリカ合衆国シカゴで創刊をした世界初の男性誌である。

<リトグラフ : lithograph>

石版画

<ルポタージュ : reportage>

報道、報道記事

<ミニマル・アート : minimal art>

装飾的・説明的な部分をできるだけ削ぎ落とし、シンプルな形と色を使用して表現する彫刻や絵画で、1950年代後半に出現し、1960年代を通じておもにアメリカ合衆国で展開した。

3. 発表にむけて

私たちは、発表を通し「見る」という行為をみなさんとともに考えていきたいと思っています。また、今回は4週に渡り考察してきたコンセプチュアル・アートのまとめの週でもあります。したがって、宿題として回収したりすることはしませんが、一人一人が現在

を生きる我々にとってコンセプチュアル・アートとは一体何なのか/何だったのか？という問いに関して考えてくる必要があります。またそれぞれの発表で話し足りなかったことなどありましたら、そのことに関しても議論していきたいと考えています。各自、これまで扱った文献、レジュメを全て持参して発表に望んでください。